

各地の話題 東松島市

2024年8月2日号掲載



「希望の大麦」収穫祭～地域に愛され 10年目～

東松島市矢本地区で6月1日、(一社)東松島みらいとし機構(通称HOPE)と市内農業法人等で構成される「希望の大麦プロジェクト」が、収穫祭を開催した。当日は収穫体験や同団体が栽培した大麦を使ったクラフトビールが振る舞われ、多くの来場者でにぎわった。

プロジェクトはアサヒグループの支援を受け、東日本大震災の被災農地を活用して「なりわい」と「にぎわい」を取り戻し、大麦を地域に愛される産業にしたいと2014年に始まった。昨年12月には、ベガルタ仙台と協力し、播種後の圃場で子どもが楽しめる企画として「麦踏みサッカー教室」を開催した。同団体ではこれまで、クラフトビール「GRAND HOPE」やアサヒビール限定品などを商品化し、2027年にはウイスキーの完成も目指す。

品種は、香りや味が劣化しにくい特徴のある「ニューサチホゴールド」を栽培し、今年の栽培面積は20畝で約70トンの収穫を見込む。

機構の引間世枝美^{ひきまよし}代表理事は「この美しい風景を後世につなぐため、50年後の主力産業となるよう続け、地域に愛されるプロジェクトにしたい」と思いを語る。

参加者の記念写真



麦刈り体験の様子



【記事提供】東松島市農業委員会